

---

## 東方心封眼 ~ The spirit eyes ~

有利。

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方心封眼 〈The spirit eyes〉

### 【Nコード】

N4451Y

### 【作者名】

有利。

### 【あらすじ】

心封眼しんふうがんという心を司ることができ、摩訶不思議な目を持つ少年、貴瀬神羅きせしんらは平和な毎日まいひを過すごしていた。

しかしある日、魔龍玉まりゅうぎよくという道具で強大な力を手にいれたクラスメイトに幼女の妖怪へと姿をかえられてしまう。

妖怪に変えられてしまった神羅は人間の好奇の的となり、逃げていたが……。

この作品はZUN氏による東方projectの二次創作小説です  
二次創作が嫌い、苦手という方はUターンお願いします

## 第一話 心封眼へスピリットアイズの少年（前書き）

これは東方projectの二次創作です。

二次創作が嫌い、苦手という方はUターンお願いします。

キャラの台詞は、公式や他の二次創作を基本にしていますが、多少おかしい部分もあるかもしれません。  
その時は報告してくだされば幸いです。

## 第一話 心封眼へスピリットアイズ《の少年

「ジリリリリリリリリリリ・・・」

目ざまし時計が寝ている少年を起こそうとしたのだが、少年はピクリとも動かない。

「　　」

WALKMANから少年の好きな音楽が流れてきても、少年は幸せそうな表情で爆睡していた。

そして・・・

気付けば、もう遅刻《タイムリミット》である。

「なんで起こしてくれなかつたんだよっ！」

「何回も起こしたでしょ!？」

と、朝から親子喧嘩。

そして学校へ猛ダツシュ!

先生のお説教をいただいた後、教室へ。

毎朝こんな生活をしている少年の名前は、貴瀬神羅きせしんらい中学3年生の男子である。

そんな少年の物語の始まり始まり・・・



## 第一話 心封眼へスピリットアイズ の少年（後書き）

年末までに、序章は仕上げる予定です。

ちなみに考えた結果、話によってーと三人称両方使うことにしました（え

## 第二話 普通の日常へノーマルデイズ

「また、遅刻か神羅ああっ！」

朝読書ということで、静まりかえった教室。その近くで怒鳴り声が響いた。

そして、朝から一喝された神羅が、教室へ入ると小さな笑いが起こった。

「またかよお前www」

「今月は遅刻何回目だよ．．．ギネスとか載るんじゃない？」

キーンコーンカーンコーン

「次の授業は体育だから、みんな着返えろよ。」

学級委員長が叫ぶと、みんな動きはじめた。

「あ、神羅。先生が宮元と職員室に来て言ってたぞ。」

「あ、まじか。委員会の仕事かなあ．．．。」

遠くに居た宮元を呼び、神羅は職員室へとむかった。

「宮元。お前、好きな人とか居るん？」

神羅にいきなり話かけられ、慌てた様子で、

「い、いきなり何よっ……。べ、別に居ないか、から！」  
「そうなの？面白くねえなあ……。」

そんな他愛もない会話をしながら職員室へ行き、頼まれた仕事を行った。

少年少女作業中……

「ふう、やっと終わったぜ。」

「もう、次の体育が始まっちゃっよ！」

「や、やべっ……。宮元、早く教室行こっぜ。」

廊下を駆けぬけて、「こら！走るな！」なんて聞こえたけれど、神羅は気にしない。

そうして、教室に着いた。

しかし、クラスメートが居るはずの教室は、何故か静かだった。そう、真夜中の墓地のように……。

だが、神羅はそんな事には気づかずに教室の扉を開けた。

しかし、教室の中には誰一人居なかった。

教室にあったのは、無造作に置かれた石像だけだった。

「なんだ……。これは……。」



## 第二話 普通の日常へノーマルデイズ (後書き)

少し、慌てて作ったのでミスが多いかもしれませんが(笑)  
指摘してくれると有り難いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4451y/>

---

東方心封眼 ~ The spirit eyes ~

2011年12月24日07時50分発行